問題1

74歳女性。特発性心室頻拍の経過観察中に黄疸を指摘され、精査加療目的のため、大学病院を受診した。

【現症】

身長151.8cm、体重52.8kg、体温36.8℃、血圧138/72mmHg、意識清明、呼吸音：雑音なし、心音：雑音なし、過剰心音なし、下肢：浮腫なし。眼球黄染、皮膚黄染。腹痛なし、Murphy徴候なし

【血液検査】

T-Bil 6.9 mg/dL, D-Bil 4.9 mg/dL, AST 79 U/L, ALT 69 U/L, ALP 636 U/L, γ-GTP:720 U/L, アミラーゼ 81 U/L, BUN 13 mg/dL, Cre 0.94 mg/dL, HbA1c 5.7 %, WBC 3760 /μL, RBC 396万/μL, Hb 12.0 g/dL, Plt 29.5万/μL, CRP 0.18 mg/dL

内視鏡的逆行性膵胆管造影(ERCP)施行時の造影画像を以下に示す。



問1 まず行うべきなのはどれか。一つ選べ。

A. 膵酵素補充

B. 経皮経肝胆嚢ドレナージ

C. 内視鏡的胆道ドレナージ

D. 胆嚢摘出

E. 膵頭十二指腸切除術

解答：C

問2 膵頭部腫瘤に対し超音波内視鏡下穿刺吸引法(EUS-FNA)を行ったところ、adenocarcinomaの診断が得られた。また、CT画像では膵頭部に不整形腫瘤と腹膜播種が見られた。次に行うべきことは何か。

A. 大量輸液

B. 抗菌薬投与

C. 放射線治療

D. 全身化学療法

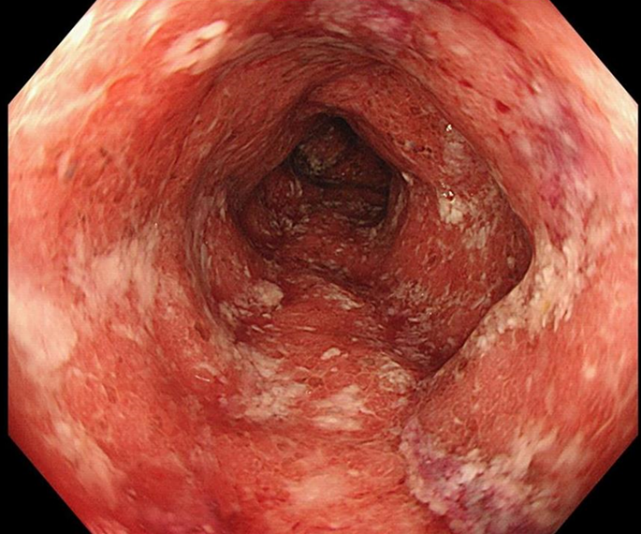
E. 膵頭十二指腸切除術

解答:D

問題2

43歳男性。

数日間にわたる10行/日の血性下痢、38℃以上の発熱、左側面中心の腹痛を主訴に受診した。CTで全大腸に壁肥厚を認め、同日緊急入院した。入院後の下部消化管内視鏡検査の所見を示す。



問1 本疾患の治療として、まず投与すべきなのはどれか。

A. トラネキサム酸

B. 副腎皮質ステロイド

C. ノルアドレナリン

D. メトトレキサート

E. ケイ酸アルミニウム

解答:B

問2 問1の薬剤を投与したが、治療抵抗性が見られた。次に投与を考えるべきなのはどれか。

A. タクロリムス

B. アセチルサリチル酸

C. パクリタキセル

D. インスリン

E. フェンタニル

解答:A

問3 問2の薬剤を投与したところ、1年ほどは症状を抑えられていたが、最近になり症状の再発が見られ、再度来院した。血便を伴う下痢、腹痛、ふらつきを訴えている。HR:106/min, 血圧:111/65 mmHg, BT:37.4℃, SpO2:98%, 顔面蒼白である。以下に血液検査の結果を示す。

TP 6.4 mg/dL, Alb 3.3 g/dL, WBC 3390 /μL (Neut 64.0%), CRP 0.08 mg/dL, Hb 6.0 g/dL, Plt 26.9万/μL, Fe 136 μg/dL, フェリチン 7 ng/mL, BUN 15 mg/dL, Cre 1.15 mg/dL, eGFR 56.57 ml/min/1.73m2, Na 140 mEq/L, K 4.1 mEq/L, Cl 107 mEq/L, AST 16 U/L, ALT 6 U/L, ALP 90 U/L, γ-GTP 59 U/L, LDH 145 U/L, T-Bil 0.4 mg/dL

次に行うべき治療はどれか。2つ選べ。

A. 生物学的製剤の投与

B. 輸血

C. 鉄剤投与

D. 止痢薬投与

E. 緊急開腹手術

解答:A,B